

【基礎分野】		必須科目					
科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
人間と哲学		1 セメスター		1 単位		15 時間／	8 回
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数		
		銭廣 承平 (実務経験 有)			時間／ 回		
事前学習内容							
・「私って何?」「私にとっての利とは?」という問いに答え自己を知る（自己分析）。 ・責任と自由について、自己の考えをまとめておく。							
科目概要・目標							
哲学の学習は、これまでの経験から成り立つ「自己正当化」に新たな意味を加える等、立場による正しさの違いに気づく機会となる。本科目では、正解のない問いについて考え抜き、誰もが深く納得できる「共通了解」について学び、また物事に対する問いや考え方を広げ、生きる力の本質を見出す。							
D P との関連		* 特に関連の深いものを提示する					
DP(2)看護師として使命感をもち、倫理に基づいた判断・行動ができる。							
授業計画							
1. 「在ること」とはなにか――論理の基本 2. 科学的思考――科学革命の条件 3. システムという視点――基本のゆらぎ 4. 自己同一性――責任と自由 5. 心の在りよう――内なる他者 6. 社会の中のヒト――外なる自己 7. 問いを立てて考える(討論会)							
評価方法							
レポート 90% 平常点 10% 60点以上を合格とする。							
使用テキスト							
なし							
参考文献							
看護学生の哲学入門(人間理解のために) 学習研究社 はじめての哲学的思考 ちくまプリマー新書 下流志向 学ばない子どもたち 働かない若者たち 講談社文庫							

【基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
心のしくみと行動		1 セメスター		1 単位		30 時間 ／ 15 回	
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数		
		高松 みどり (実務経験 有)					
事前学習内容							
・自分の考える自己の性格や特性をまとておく。 ・自己の喜怒哀楽の行動を記録しておく。 ・学習進度に合わせてテキストを読んでから授業に参加する。							
科目概要・目標							
看護対象はこころのあり方によって行動が変化するため、心理学の知識を踏まえた対処・支援が必要である。本科目では、自己・他者理解を深め、人間の心理状態と行動を科学的に洞察し、看護の対象を統合的に捉える基礎を身に付ける。							
D P と の 関 連 * 特に関連の深いものを提示する							
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。							
授業計画							
1. 心理学とは何か 2. 性格（性格とは？・性格検査） 3. 知覚（視覚の不思議） 4. 記憶（記憶のしくみ・忘却の理論） 5. 学習（学習の理論） 6. 思考（問題解決・推理） 7. 言語（言語能力の発達） 8. 知能（知能の測定） 9. 社会心理（集団行動・対人関係） 10. 発達 11. カウンセリング・心理療法 *筆記試験（1時間：45分）							
評価方法							
筆記試験 （100％）							
使用テキスト							
「系統看護学講座 基礎分野 心理学」 医学書院							
参考文献							
授業で紹介する。							

【基礎分野】		必須科目					
科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
教育と人間		3 セメスター		1 単位		30 時間／	15 回
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数		
		山本 直子 (実務経験 有)			時間／ 回		
事前学習内容							
授業計画に提示のテーマ1.2.3について、調査しておく。							
科目概要・目的							
教育は人々の安全を守り人間らしく生きるために重要である。また、教育が人や社会を形成し社会もまた教育のありようを形成する。本科目では時代背景と共に変化する教育が人と社会に及ぼす影響を理解し、人が学ぶことの意味を考える。							
D P との関連		＊特に関連の深いものを提示する					
DP(7)専門職として新たな知識や技術を学び続け、対象にとって最善の看護を探究できる。							
授業計画							
1. イントロダクション テーマ1：「軍国主義教育と学校、教師、子ども（～1945年）」 2. テーマ1を映像から深める 3. テーマ1についての検討、議論 4. 講義 5. 日本国憲法と戦後教育の基本理念～教育基本法（旧法）を読む～ 6. 講義 7. テーマ2：管理主義教育と「落ちこぼれ」問題（1970年代） 8. テーマ2を映像から深める 9. テーマ2についての検討、議論 10. 講義 11. テーマ3：現在の日本社会と教育（1990年代～） 12. テーマ3を映像から深める 13. テーマ3についての検討、議論 14. 講義 15. 全体のまとめ～「学ぶこと」の意味を考える～ ＊筆記試験（1時間：45分）							
評価方法							
グループ活動への参加（50％）、レポート（レポート検討を含む）（50％）、合計で60点以上を合格とする。							
使用テキスト							
テキストは特に指定しないが、各回の授業で資料について適宜指示する。							
参考文献							

【基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
スポーツと健康		1 セメスター		1 単位		15 時間 ／ 8 回	
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数		
		奥谷 俊介 (実務経験 有)			時間 ／ 回		
事前学習内容	身体活動と健康の関係について調べておくこと。						
科目概要・目的	健康の保持・増進には様々な活動がある。そのなかでも本科目では、スポーツによる身体的・精神的効果を体感し、身体活動が及ぼす健康維持と疾病予防の重要性を学ぶ。また、スポーツを通して仲間との関係を育む。						
D P との関連 * 特に関連の深いものを提示する		DP(4)多様な価値観を持つ対象を尊重し、対象に有益となる人間関係が形成できる。					
授業計画	1.オリエンテーション 2.アイスブレーキング 3.仲間作りゲーム 4.ニュースポーツ 5.まとめ						
評価方法	出席（50％）、参加態度（30％）、レポート（20％）、 合計で60点以上を合格とする。						
使用テキスト	適宜資料を配布する。						
参考文献							

